

1. 評価報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4091800013
法人名	株式会社 ピース
事業所名	グループホーム ほりいけ
所在地	〒802-0070 福岡県飯塚市堀池268-1 (電話)0948-26-5008

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポート うりずん		
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号		
訪問調査日	平成21年11月10日	評価確定日	平成21年12月3日

【情報提供項目より】(平成21年10月26日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18年 12月 1日				
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18人		
職員数	18人	常勤	11人, 非常勤	7人, 常勤換算	9人

(2) 建物概要

建物構造	木造り
	1階建ての 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000円	その他の経費(月額)	14,000円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(72,000円)	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	300円	昼食	350円
	夕食	400円	おやつ	150円

(4) 利用者の概要(10月26日現在)

登録人数	18名	男性	3名	女性	15名
要介護1	4	要介護2	5		
要介護3	5	要介護4	3		
要介護5	0	要支援2	1		
年齢	平均 86歳	最低	72歳	最高	94歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	稲築愛恵病院 アイ歯科
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームほりいけは代表者が青少年期を過ごした田園地帯の静かな住宅街にある2ユニットのホームである。住民の暖かいサポートや近隣農家の野菜の差し入れ、近くの神社のどんど焼きや餅つきなど地域行事への参加、恒例になったホームの夏祭りやソーメン流し等で地域住民と交流しているが、幹線道路の整備で付近の交通量が増えつつある。運営推進会議で、交通量を考慮し、外出傾向のある入居者への対応、地域の方の通報で大事に至らなかった事例を報告し、改めて地域に理解と協力をお願いしている。ホーム理念の「幸せいろいろ、それぞれ実感」をそのままに、入居者は思い思いにソファでくつろぎ談笑したり、食事時になるとお互いに誘い合っリビングに出て来て、和やかな雰囲気談笑されている。食後は、一人の入居者の居室に集まってテレビを一緒に見る様子は、「ご近所さん」の付き合いである。職員は地域との日常的なりつながりや入居者の意向の把握などを課題として、アセスメントの見直しや具体的な介護計画の立案などに取り組んでいる。月1回の市の介護相談員の訪問で、入居者や家族の苦情や相談をホームの運営に反映しながら、管理者は介護職の安定的な雇用を図るために、積極的に研修会に参加し、今後同業者との交流に取り組む予定である。

2ユニット

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回外部評価で指摘された身体拘束虐待防止マニュアルは整備しているが、職員の異動が多く交代などがあった為、全員で取り組みができず、改善していない項目もある。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員は外部評価の意義を理解し、各ユニットで自己評価に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4、5、6)
	運営推進会議は2ヶ月に1回、施設職員のほか、毎回市職員、民生委員、地区の役員が参加し開催している。会議の中では付近の交通量が増えたことや外出傾向のある入居者への対応、地域の方の通報で大事に至らなかった事例の報告、災害対策、成年後見制度やスプリンクラー設置についても話し合われている。運営推進会議要綱や会議録は整備されている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7、8)
	年4回の通信で行事やホームの暮らしぶりを知らせている。「ほりいけ通信」でもホーム玄関に設置している「相談受付箱」への気軽な相談を呼び掛けたり、苦情になる前に管理者は家族に頻りに声をかける様にしている。毎月1回市の介護相談員が来所し、入居者や家族の苦情や相談を表出する機会を設けたり、年に数回、敬老の日などで昼食会を開催し家族の意見を聞く機会を設けている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	自治会に加入はしていないが、地域の運動会や餅つき、どんど焼き、廃品回収などに参加している。運営推進会議で、小学生の訪問が検討されたが実施には至らず、中学生の職場体験が毎年行われている。恒例のホームのソーめん流しや夏祭りに近隣住民の参加もあり、最近では見学に訪れるようになった。

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		○地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の運営理念の「幸せいろいろ、それぞれ実感」を入居者、家族が見やすいように玄関やリビングに掲示している。運営規程、パンフレットに地域密着型サービスとしての方針の記載がない。	○	地域の中でその人らしく生活する幸せを職員は理解しているが、理念が抽象的すぎるとの職員の意見もあるようなので、統一した意識が持てるように、少し具体化してはかかでしょうか。また、運営規程やパンフレットの中に地域密着サービスの方針の「地域との交流の下」の記載をお願いしたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は、ミーティング・会議など機会あるごとにホームの理念について職員に話している。職員は入居者との会話や表情から、理念を実践していると感じている。		
2. 地域との支えあい					
		○地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入はしていないが、地域の運動会や餅つき、どんど焼き廃品回収などに参加している。運営推進会議で、小学生の訪問が検討されたが実現せず、中学生の職場体験が毎年行われている。恒例のホームのそうめん流しや夏祭りに近隣住民の参加もあり、最近では見学に訪れるようになった。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
		○評価の意義の理解と活用			
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	各ユニットごとに自己評価に取り組んでいる。前回外部評価で指摘された身体拘束虐待防止マニュアルは整備しているが、職員の異動が多く交代などがあった為、全員で取り組みができず、改善していない項目もある。	○	外部評価の意義を話し合い、活用することが、安定した職場作りに繋がると思います。今回の外部評価を活かして、具体的な取り組みに期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議設置要綱が整備され、守秘義務について取り交わしている。地域自治会長や老人会長の参加があり、適切なメンバーで2カ月ごとに開催している。前回の外部評価の結果の報告や行事報告、交通量の増大の対応、災害対策、サービス内容等の検討が行われ、議事録も整備されている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	外部評価の結果の報告や事故報告、入居者の権利擁護の相談などに出向いている。毎月、介護相談員が来所し、職員や入居者に意見を聞いたり相談にのっている。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者と職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会をもち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれを活用できるように取り組んでいる。	成年後見制度、地域福祉権利擁護事業等のパンフレットを整備している。研修会に参加している。入居当初、成年後見制度について説明をしている。身寄りのない入居者の成年後見制度の活用を、裁判所に出向き相談をしている。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	年4回発行のほりいけ通信で行事やホームの暮らしぶりを知らせている。職員異動や近況報告、健康状態の報告は家族の訪問時必要に応じ行っている。預かり金は現金の出し入れがあるたび職員が確認後捺印し、入金時家族から出納状況の確認印をもらっている。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に苦情相談機関を明記している。ほりいけ通信でもホーム玄関に設置している「相談受付箱」への気軽な相談を呼び掛けている。オンブズパーソンとして介護相談員の来所を市にお願いしたり、苦情になる前に管理者が家族に聴き取をしている。年に2～3回、焼肉会や夏祭りなどで家族の意見を聞く機会を作り、運営に反映させている。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は職員の離職が抑えられるよう、介護業務を一緒に行いながら、職員の相談に乗ったり、助言を行っている。新人の職員が入る際は、入居者が不安にならないためにベテラン職員を配置し、新人職員がゆったりと寄り添える時間を確保するために、シフト調整を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表及び管理者は職員の募集・採用にあたっては性別や年齢を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるように配慮している。	職員の採用の基準は特に設けておらず、ハローワークや就職情報誌で資格にこだわらず求人している。雇用契約書・服務規程・就業規則など整備されている。研修会には勤務を調整し、参加を促している。緊急時以外は残業はなく、交代で休憩を取るよう男女別に休憩場所を確保している。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。	人権研修会に参加し、人権教育・啓発に取り組んでいる。身体拘束防止について運営規程や契約書に明記している。やむを得ず身体拘束を行う際の承諾書を作成し、身体拘束虐待防止マニュアルを整備している。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	福岡県高齢者グループホーム協議会に入会し、勤務時間内に研修会に参加できる様に調整している。市や社会福祉協議会の研修会を活用した新任・常勤の年間研修計画を作成し、年2回の社内研修や伝達研修を行っている。各ユニットの管理者が職員の悩みごとの相談を受けている。職員の入れ替わりが多く、受けた研修が上手く実務に反映できていない。	○	入職直後に、職場理念や認知症ケアの研修を充実させることで、早期の離職の防止に繋がっていただきたい。
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福岡県高齢者グループホーム協議会に加入し、Fブロックの研修会などに参加し、意見や情報交換ができる研鑽の場を設け、サービスの質の向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	突然の環境変化に戸惑わないよう、入居前に生活歴や生活環境の情報収集を行い、本人に合った居室の環境作りを行っている。今年4名の新しい入居者があったがスムーズな入居となっている。一時的に帰宅願望が強い入居者にはご家族に来ていただき一緒に過ごしていただくなど、個別に対応している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は入居者の意向を聞いて支援しており、人生の先輩として敬意を持って接し、日々の関わりの中で思いや意向の把握に努めている。身体を使う作業は難しくなりつつあるが、草取りや野菜の防虫などを入居者が職員に指南することもあり、収穫を共に喜んでいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者から職歴や生活歴、思いや意向を聞き取っているが、情報が共有できるアセスメント記録がない。東京センター方式を利用して思いや意向を把握したいと考えている。	○	日々の暮らしの中から、入居者の思いや希望を把握し、個別な習慣、生活スケジュールが組み立てられるように、アセスメント記録の取り方を見直していただきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	各ユニットの管理者が介護計画を作成しているが、アセスメントした本人の困りごとを計画に落としこめていない。担当者会議の記録があり、計画書に入居者家族の署名捺印がある。	○	アセスメントから課題を抽出をした経緯が分かるように記録を整備していただきたい。
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヵ月ごと、利用者の状態像が変化したときに見直しが行われており、はモニタリング記録が整備されている。見直した介護計画書第一表は書き直しをしているが、入居者家族に説明した記録署名捺印がない。	○	担当者会議の家族の参加を積極的に行っていただきたい

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	受診支援を行っている。希望があれば個別になじみの理美容への送迎をしたり、自宅訪問や自宅周りの散策に出かけたりしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間ごと協力医療機関の訪問診療がある。眼科や歯科受診なども個別に対応し家族に報告している。協力医療機関から指示された介護の方法を記入した申し送りノートを作成している。介護保険の更新時健康診断を行う様に協力医療機関との連携を取っている。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重要事項説明書に「重度化した場合における対応(医療連携体制)にかかる指針」を明記し、看取りについても説明している。入居時早い段階から終末期の意志確認を文書で取り交わしている。協力医療機関の医師、看護師と24時間連絡できる体制があるので、水分摂取や観察・報告などきめ細かな配慮をしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	人権やプライバシーに関する研修を実施しているが、個人情報の保護に関する方針を事業所内に掲示していない。職員は入居者の尊厳に配慮した声かけや対応をしている。	○	個人情報の保護に関する指針の掲示をお願いしたい。
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は入居者の意向を聞き、本人のペースや体調に合わせて買い物や散歩などを支援している。食事の時間の無理強いはないが、時間になると三々五々誘い合いリビングへ集っている。食後は、一人の入居者の居室に集まってテレビを一緒に見る様子は、「ご近所さん」の付き合いそのままである。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事時にはリラックスできる音楽が流れている。気の合う入居者が誘いあってテーブルに着く姿が見られる。食事は職員一人が伴食を行い、他の職員は手を出し過ぎることなく、入居者のADLに合わせて見守りながらの食事の介助が行われている。		
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望すれば毎日の入浴も可能であるが現在は週3回入浴を支援している。入浴拒否には無理に勧めることなく、声かけのタイミング等を工夫し、定期的な入浴ができています。また、異性の介助を嫌う入居者には同性の職員が対応している。発熱時は清拭をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者と野菜を畑に植えたり草取りをしたり、草取りや野菜の防虫指南を受けたりしている。洗濯物を一緒に畳んだり、カラオケと一緒に興じたり、貼り絵や編み物、裁縫などできる事を見つけ支援している。仏壇のお水やお供えをしたり、入居者同士で入浴や食事を誘い合ったりしている。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	年間レクリエーション計画があり、日常的に入居者の意向に沿って神社への散歩やドライブ、買物に出かけている。実施後報告書も作成しており、反省点を記載し次回に活かす様にしている。一日かけて遠方のドライブに行くこともある。今年はホテルでのランチが好評だった。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間のみ施錠している。日中は玄関に取り付けた鈴で対応しているが、外出傾向のある入居者もあり、近くのパン屋さんや消防署、交番などに協力を依頼している。通学中の中学生や小学生の協力も得られるようになった。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	非常災害時マニュアル、緊急時連絡一覧表、消火器の設置、緊急時備蓄の整備があり、日中だけでなく夜間を想定した消防訓練を年2回実施している。近隣の交番の巡視も行われている。運営推進会議で災害対策を議題に出し、地域住民に災害時の協力を要請している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	居室に水分摂取がいつでも手軽にできるようにお茶などを入れたボトルを置いている。給食調理員の経験のある職員が献立を立て、毎日配達される食材で2ユニット分を一緒に調理している。職員は入居者の好みや咀嚼、嚥下状態を把握しており、粥食や刻み食、ミキサー食で栄養摂取を支援している。1カ月に一回、体重測定をし、健康管理を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関周りには花を植え、ベンチを配置し、近隣の方や入居者が気軽に立ち寄れる様にしている。時々、小学生の休む姿も見られる。玄関を入ると、ユニット間の仕切りが取り払われて広々とした居間に続いている。居間は床暖房で高い天井からは自然の採光が入る造りになっている。居間や廊下には行事を楽しむ入居者の写真や季節の花、手作りの作品等が飾られ、居室に近い廊下にも座り心地の良いソファを配置し、入居者同士で談話ができるよう配慮している。		
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れたベッドやタンス、調度品が持ち込まれている。個別の部屋作りをしているが、足元に引っかかりがないように床は整理されている。大きな仏壇を前に「毎日、仏飯と水をあげて、お経をあげているんですよ。」と女性の入居者が協力してくれる職員に感謝していた。		